



川北慎一郎・影近謙治・八幡徹太郎(著)

『リハ医学のすすめ』

日常診療に役立つエッセンスとピットフォール』

熊本機能病院 総合リハビリテーション部神経内科

渡邊 進

新しい観点、それはリハビリテーション(以下、リハ)科以外の専門医や研修医に「日常診療に役立つリハ医療」を伝えたいという考えで書かれたのが本書『リハ医学のすすめ—日常診療に役立つエッセンスとピットフォール』である。

現在、リハ医療の必要性は、医師などには以前と比べ理解されてきているが、リハ医療自体への理解は進んでいないのが現状である。リハ科専門医である川北慎一郎先生、影近謙治先生、八幡徹太郎先生が、リハ科以外の専門医や研修医に「日常診療に役立つリハ医療」を伝えるために、あまり専門に偏らず、著者自身の経験をできるだけ取り入れて、新しい観点から書かれているのが本書の特徴である。

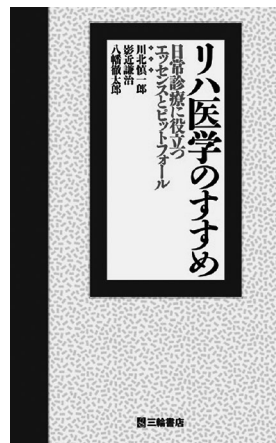
内容は3つの章で構成されている。「第一章：リハの理念と実際」では、川北先生の「すべての医師に、臓器別専門治療から地域生活につなげていくリハ医療の重要性を認識することが求められている」というリハマインド(リハ医療に大切な心の持ち方)を日常診療に、という内容から始まり、この観点に基づいたリハ医療の流れ、チーム医療、診断学、栄養、診断書について述べてある。

「第二章：障害とリハ医療の現状」では、障害分類、脳・神経系障害、運動器障害、内部障害、廃用症候群、がんとリハ医療の現状だけでなく、新しいニューロリハの現状、そして介護予防でのリハの重要性について具体的に紹介してある。

「第三章：障害別リハ」では、本書の特徴の一つであるが、A. 脳・神経・血管障害、B. 運動器障害、C. 内部障害・嚥下障害・がん・その他について、3人のリハ科専門医が普段の診療の中で実際に

経験した例を挙げられ、考察されている。項目は、リハ科の医師に役立つ内容だけでなく、「単麻痺患者の診断は慎重に」、「意欲低下患者に必要な鑑別とは」、「内科入院患者の隠れ大腿骨頸部骨折」、「がん患者に対するリハの意義」、「糖尿病の運動指導では筋トレも重要」、「心臓ペースメーカー植込み術後早期の上肢運動は注意」など、リハ科以外の専門医や研修医が、医療の現場で実際遭遇する内容が多く盛り込まれている。興味がある部分だけでも読みやすく、参考になる。

リハ科以外の専門医や研修医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護福祉士などの方々、そしてリハ科医師にも、ぜひ読んでいただきたい一冊である。



● A5変型判/240頁/1色刷/定価：本体3,400円+税/2013年/三輪書店刊(販売部 Tel: 03-6801-8357)